

道、部分開業に消極的

道は14日の道議会新幹線・総合交通体系対策特別委員会で、沿線自治体などから要望のある新函館(仮称)―長万部間の部分開業について「工期を大幅に短縮し、できる限り早く札幌開業を実現することが最も重要」と述べ、消極的な姿勢を示した。

国土交通省が2035年度末開業予定の北海道新幹線の新函館―札幌間で、工期を短縮した場合の追加負担の試算を示したことについては「地方負担に対する財源措置の拡充について国に強く要請する」と述べ、地方負担の軽減を求めている考えを示した。

自民党・道民会議の佐藤禎洋氏(小樽市)、民主党・道民連合の梶谷大志氏(札幌市清田区)、北海道・大地の鳥越良孝氏(北見市)への答弁。